

東京都西多摩郡奥多摩町議会

1 政策づくりと監視機能を十分発揮している議会

奥多摩町は、長い年月の中で美しい自然と文化を育んできた。それが「巨樹と清流のまち」として、東京都民の憩いや健康に果たす役割には大きなものがある。

しかし、過疎化の波が衰えず、少子化にも歯止めがかからない。若者世代の転出を抑え都市部からの移住希望者を定住させるための仕組みをどう工夫していくか。行政と議会が知恵を出し合い、琢磨しながら、各種の施策を展開している。

町では前述の転出を食い止め、定住化を促進することに加えて、若者世代の結婚、子育てまでを視野に入れた、「奥多摩町少子化対策・定住化対策総合計画（緊急3か年計画）」を平成25年3月に策定した。

この策定にあたっては、議員が住民の意向をくみあげるため、町内視察を行いながら、また、議会報告会で対話を続けた成果も多分に入っている。若者向け町営住宅の整備や、定住化を促進するための生活道の整備などがこれである。平成25年10月にはこの計画を着実に推進するため、「奥多摩出合いの場 ふれ愛サポートセンター」を設置したが、これも議会での討論が結実したものである。

現在、平成27年度を始期とする第5期長期総合計画の策定に向け、住民委員会を立ち上げ、本格的な議論が始まった。その下準備として住民の意識調査を実施したが、この中に中学生からもアンケートを募り、若い眼でみた町の姿を浮かび上がらせた。この導入にあたっては、毎年実施する「こども議会」の意見などが反映されている。「こども議会」の実施については、当然のことであるが、議会としても全面的に協力を図っている事業でもある。

議会の監視機能については、政策提言を図り、行政と両輪になってその実施を図っているが、事業の進捗と同時に効率性、効果については決算委員会に限らず、ことあるたびに検証を行っている。例えば各常任委員会において閉会中にも事業の調査を継続的に行うなど、適正な執行には厳しく対応している。

2 住民に開かれた議会

町議会の開催については、印刷物のみならず防災無線放送を通じて住民の皆様にお知らせし、多くの傍聴を募っている。

また、「議会だより」を年4回発行しているが、編集委員会で見やすい紙面づくりを目指し、他自治体の発行紙等を参考にしながら紙面構成に研鑽を積んで

いる。

議場の装置にも工夫を凝らし、傍聴席と議場が近く、また、見やすくなるよう配置している。

さらに、議会、議場をオープンにするだけでなく、議会報告会を出来る限り開催し、住民の意見を聴くという、いわば議会のアウトリーチに力を注いでいる。

なお、議会情報の提供について編集委員会では、手法の効果的な組み合わせはどうすべきか、情報提供のタイミングをどう図るかなどを検討している。

3 地域振興のために特別な取組みをした議会

奥多摩町は自然と文化のまちである。しかし、人口の減少や産業の低迷、住民の郷土意識の希薄化などの課題を抱えている。

町では平成25年3月に少子化対策と定住化対策を併せ持つ緊急の総合計画を策定したがこの策定にあたり議会が果たした役割は大きい。若者定住化促進のため宅地整備等の施設整備を提案しこの計画の柱の一つとして実現を見ている。

また、町の面積の94%を占める森林の整備は、林業の再生や観光という産業振興にとって重要である。整備にあたっては、ボランティア団体やNPO法人と連携しながら森の環境づくりに力を入れているが、事業の継続と拡充について、議会での提案が活発に行われている。

さらには、町では森林資源を活かした森林セラピー活動を観光事業に取り入れて実施しているが、それだけに留まらず、町民の健康増進に利用することを議員の発案で実施している。

課題に取り組み、解決を図ることは勿論であるが、町の持つ良さを伸ばす視点も重要である。この視点を町議会として常に念頭に置いた議会審議を行うのみならず日頃の活動にも力を入れている。

例えば、今年で5回目となった「おくてん」という奥多摩に住むアーティストと自然、施設を一体化したムーブメントにおいて、実行委員会に議員も加わり、産業の振興に結びつけている。

地域振興のためには協働型社会の形成が重要となる。議員が議会報告会を頻繁に開催し、参加者の意見を聴き、議会活動に活かすとともに、住民相互の結びつきに繋がる方策はないか、コーディネート出来るものはないかを考えている。